

再興第106回 院展 金沢展



田淵俊夫《春爛漫》
—「再興第106回院展 金沢展」より—

- 赤門が迎えたお姫様 —溶姫の絵画と婚礼調度—
【前田育徳会尊經閣文庫分館】
- 浮世絵にみる『忠臣蔵』【古美術】
- 優品選Ⅱ【近現代工芸】
- 現代の書【近現代書】
- 優品選【近現代絵画・彫刻】
 - 〔ミュージアムレポート〕ダンス・ウェルー彫刻とともに
 - 〔ミュージアムレポート〕学校出前講座
 - 学芸室の人々
 - 〔参加者募集!〕映画上映会「最後の忠臣蔵」
 - 12月の行事予定
 - アラカルト ただいま展示中

第7～9展示室

再興第106回 院展 金沢展

12月9日(木)～22日(水) 会期中無休

日本美術院は岡倉天心らの呼び掛けにより一八九八(明治三十一年)年、横山大観をはじめとする日本画家二十六人が集まり創設されました。近代日本画の歩みでは日展とともに、巨大な足跡を築いてきています。

金沢への巡回は二〇一八年以来、三年ぶり、日本画壇を牽引する日本美術院の同人らによる一〇一点の秀作が公開されます。

金沢展では満開の桜をダイナミックに描き出した田淵俊夫理事長の「春爛漫」をはじめ、日本海の荒波を描いて奨励賞を受けた谷善徳さん(金沢市)の「北しぶき」、下田義寛さん(滑川市出身)の「昇陽」などが展示されます。

〈おもな出品作家〉

田淵俊夫、下田義寛、那波多目功一、清水達三、福王寺一彦

主催／日本美術院、北國新聞社、石川県立美術館、一般財団法人石

川県芸術文化協会

後援／石川県、石川県教育委員会、金沢市、金沢市教育委員会、一般

財団法人石川県美術文化協会、NHK金沢放送局、北陸放

送、テレビ金沢、金沢ケーブル、エフエム石川、ラジオかなざ

わ、ラジオこまつ、ラジオななお

◆観覧料

| | 当日 | 前売り | 団体 |
|--------|-------|------|------|
| 一般 | 一〇〇〇円 | 九〇〇円 | 八〇〇円 |
| 高校・大学生 | 六〇〇円 | 五〇〇円 | 四〇〇円 |
| 小・中学生 | 四〇〇円 | 三〇〇円 | 二〇〇円 |

※団体は20名以上

※当館友の会会員は団体料金に割引

◆連絡先

北國新聞社事業部

電話…076-260-3581



那波多目功一《春の名残り》



下田義寛《昇陽》



福王寺一彦《三日月》



清水達三《立山》

浮世絵にみる『忠臣蔵』

12月9日(木)~1月23日(日)

昔は年末になると、『忠臣蔵』の時代劇ドラマが放映されたものです。赤穂藩浅野内匠頭が江戸城松の廊下にて吉良上野介を切りつけるも失敗し、切腹・領地没収・絶家の沙汰となった第一夜。赤穂藩の四十七人の浪人が、吉良邸を襲撃し、主君の恥辱を注いだ第二夜と、二夜連続放送というのも定番でした。吉良邸を襲撃したのが十二月十四日から十五日にかけての出来事だったので、年末の題材となったのです。

もともと江戸時代に『仮名手本忠臣蔵』という浄瑠璃として人気を集め、『菅原伝授手習鑑』『義経千本桜』と並ぶ三大名作のひとつとなりました。歌舞伎を題材にした浮世絵は多く摺られたように、この『仮名手本忠臣蔵』を題材にした浮世絵も少なくありません。今特集では、本館の浮世絵コレクションの中から、この『忠臣蔵』を題材にした浮世絵を、初公開も含

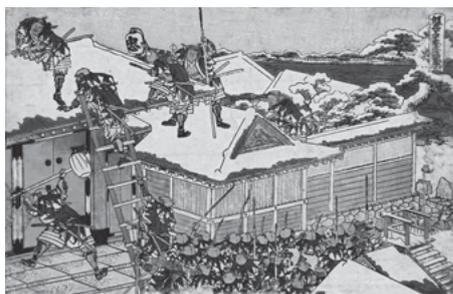
め全二十一点紹介します。

全十一段からなる『仮名手本忠臣蔵』を、「鶴岡の響応」から「合印の忍兜」まで、一段一枚ずつ描いたのが、葛飾北斎です。こちらを一挙初公開します。

舞台の場面の絵画化だけでなく、四十七人の浪人に扮した人気役者ひとりひとりを描いたシリーズもあります。歌川国貞『誠忠義士伝』で描かれるのは、大石内蔵之助に扮する三代目沢村宗十郎、堀部安兵衛は八代目市川團十郎です。

『忠臣蔵』が歌舞伎化されて間もない寛政から文化年間に京都で行われた舞台を主題とした《四代目市川団蔵の大星由良之助》も初公開となります。

関連行事として映画上映会を行います。詳細は7ページをご覧ください。



《仮名手本忠臣蔵(十一段目)》葛飾北斎

赤門が迎えたお姫様 —溶姫の絵画と婚礼調度—

12月9日(木)~1月23日(日)

少し前にNHK県内ニュース内で「加賀藩の婚礼」という特集があり、成巽閣のかわいい雛道具や、花嫁行列のルートが紹介されていましたが、前田育徳会尊經閣文庫分館では、前田家に伝わる婚礼調度を紹介します。加賀藩十三代藩主前田斉泰に嫁いだ溶姫の調度品です。

溶姫は第十一代将軍徳川家斉の二十一女です。溶姫を迎えるために加賀藩の江戸屋敷に建てられた赤門が、東京大学のシンボルとなっていることは、よく知られています。溶姫の婚礼調度には、すべて生家である徳川家の葵の紋の蒔絵が施され、非常に華やかです。

化粧道具を入れる十二の箱が収められた拾貳手箱しゅうじしゅてぼこ、身の回りの品を収めた大小の角赤手箱すみあかてぼこをはじめ、

元結箱もとゆいばこ、眉作箱まゆつくりばこに払箱はらいばこ、齒黒箱はくろばこなど身だしなみを整える道具、手紙や色紙、短冊を収める箱など、豊富な種類が揃います。これらの箱を載せる黒棚くろだなと厨子棚ずしだなは、近世の婚礼調度の代表です。

また、本特集では溶姫が描いた絵画を、本館にてはじめて公開します。溶姫は幼少の頃より父家斉が制作した手本をもとに絵を習い、やがて狩野派の絵師から稽古を受けるようになりました。

本特集では、『松竹双鶴図』『福祿寿図』といったおめでたい図柄の掛幅のほか、前田家が家祖と仰ぐ菅原道真の没後九五〇年を記念して、斉泰が「大富天神」と揮毫し、溶姫が梅の絵を描いた掛幅を紹介します。

《拾貳手箱 葵紋蒔絵調度品 溶姫所用》

優品選Ⅱ

12月9日(木)～1月23日(日)

近現代工芸では優品選Ⅱと題し、前回のⅠに続き優品選をご覧いただきます。

今回の優品選Ⅱでは、Ⅰから引き続き、陶芸では日本芸術院会員の作品のほか、初代徳田八十吉窯で九谷の絵付を行った洋画家中村研一作《菊花図皿》や、竹田有恒作《釉裏金彩稻穂波文鉢》を。金工は加賀象嵌の高橋介州作《加賀象嵌孔雀香炉》、《加賀象嵌鴛鴦香炉・香合》をご覧いただけます。また、展示を入れ替える部門では、漆芸はⅠでは奥出寿泉作《乾漆桔梗盛器》を展示しましたが、Ⅱでは《乾漆香盆》を。染織は、Ⅰでは水野博作《友禅訪問着「雉にしだ」》を展示しましたが、Ⅱでは《友禅訪問着「創生」》を。人形は、

Ⅰでは下口宗美作《木彫加彩人形「つつ井筒」》を展示しましたが、Ⅱでは《木彫加彩人形「浄苑」》を。截金はⅠでは人間国宝西出大三作《截金彩色蓮華香盒》を。木竹工はⅠでは展示がなかった竹の作品、橋本仙雪作《松皮菱網代盆》を展示いたします。すでに優品選Ⅰを鑑賞された方にも同じ作家のまた違った作品を楽しむことができる展示となっております。

コロナ禍、この作品を目にする頃はどれだけ穏やかな日常が戻っているのでしょうか。静かに語りかける作品を前に、ゆっくりと作品との対話を楽しんでいただきたいと思います。



水野博《友禅訪問着「創生」》

現代の書

12月9日(木)～1月23日(日)

今回の展示では、第二次世界大戦後の昭和の書作品を紹介いたします。

明治、大正時代に中国の拓本資料や日本のすぐれた筆跡などの古典で直接学ぶ方法が確立されました。やがて、書道団体が設立され、その活動が盛んになると、書は、その後、会場芸術として発展していきます。

第二次世界大戦後の日本は、社会状況が劇的に変化しました。筆と墨でも文字を「書くこと」が社会の中で一般的でなくなり、新しい芸術思想が書の世界にも流れ、大きな変革期を迎えました。書は作品発表の場として、美術館を会場に展覧会が開催されるようになり、表現形式もそれに合うよう、額装が主流で作品が大型化し、特にそれまで小さくかかれていたかなを大きく書く「大字かな」が研究されました。

また、ジャンルも漢字、かな、篆刻の三部門に加えて、書線を抽象化して非文字の書をかく前衛書、漢字とかなを調和させて書く近代詩文書、文学性に寄りかからず、一字または、二字で文字そのものを造形的に美しく表現する少字数書など、新しい分野の書も生み出されました。それは生活空間、生活様式の変貌や、素材となる文学作品への美意識の変化などが関連しています。

中国文化と西欧文化の間で揺れ動いていた近代日本の書壇から、第二次世界大戦後の開放された社会で、存分に才能を開花させた書家たちの作品が、今回の展示作品です。戦後の書壇を築いた現代書の巨匠たちの作品をご覧ください。



青山杉雨《独嘯》

ダンス・ウェル —彫刻とともに

金沢で活動するダンサーのなかむらくるみ氏(金沢市出身)を講師にお迎えし、作品を前にして身体で鑑賞してみよう、というプログラムを開催しました。舞台は金沢市出身の彫刻家を集めるコレクション展「没後50年 木村珪二」の展示室。感染症の影響で臨時休館となり一度延期しましたが、一か月後に満を持して開催。感染症対策をとり実施しました。

「ダンス・ウェル」はイタリアで始まった活動で、パーキンソン病とともに生きる方々を含む、子どもから大人まで年齢や経験に関わらず、どなたにも開かれたダンス活動です。リハビリやダンス技術の習得が目的ではなく、芸術活動として実施しており、各地の美術館でも開催されています。また、金沢は日本でダンス・ウェルが最も盛んな地域のひとつ。本プログラ

ムは「金沢ならではの」が詰まった行事といえましょう。当日は、午前・午後の部それぞれに幅広い世代の方がご参加くださいました。面白そう！と飛び入り参加された方もいらっしゃいました。

内容は、好きな作品の前に立って身体を動かす、背景を想像しながら数人で動く、木村珪二にまつわるキーワードを身体であらわす…などバラエティに富んだものでした。作品や人柄のエピソード、好きだった音楽などが随所に盛り込まれ、参加者の方々からは「彫刻や木村珪二について身近に感じられた」などのあたたかい感想をいただくことができました。

(開催：令和3年10月3日(日))

※9月5日(日)から延期)



優品選

12月9日(木)～1月23日(日)

令和三年もあと少しとなりました。健やかに年を越せるよう、願いを込めた展示です。

脇田和の《ファミリー》という素描作品を紹介いたします。脇田はこの作品の制作の前年に体調を崩す体験をし、家族と過ごす時間を慈しむ気持ちで表れた作品です。目を細め穏やかな表情の家族と共に、脇田の生涯のテーマである鳥たちも描かれています。家族の和やかな会話と共に、鳥たちのさえずりも聞こえてくるようです。

彫刻分野では、子どもや若人の姿を表現した作品を展示します。吉田三郎《子供群像》は水がめを持った子どもたちが元気に遊ぶ姿。田中昭《遊びどころ》は首にタオルをかけ桶に入っている姿です。タイトルの通り、無邪気なかわいらしさが伝わります。冬に

負けないはつらつとした姿をお楽しみください。

油彩分野では、美しい歌声や楽しい音が聞こえてきそうな作品を展示します。吉田富士夫《獅子と道化と馬の足》や吉川華優《ピエロの夢物語り》はにぎやかな音楽が、宮本三郎《歌手》や鴨居玲《望郷を歌う》(故高英洋)に《は力強く華やかな歌声が、画面に溢れています。本年は日本画家曲子光男の没後十年にあたります。曲子は幼い頃、祖父の実家がある現在のかほく市に生活するなど、石川との縁も深い作家です。日展の参与、画塾「東丘社」の顧問を務めるなど、京都画壇の重鎮であり、金沢美術工芸大学でも指導にあたりました。当館には十二点のご寄贈をいただいております。今回の第6展示室では、ささやかながら没後十年を偲ぶ展示を行います。



曲子光男《雪山》

学校出前講座

学校出前講座は、県内の学校で所蔵作品を展示し、本物の作品の魅力に触れてもらう取り組みです。平成十七年度よりスタートし、本年度で十七年目となります。

例年、美術館へ足の運ぶ機会の少ない地域の学校を中心に十校程度で開催していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、今年度は前年度と同様に四校での開催となりました。十月から十一月にかけて加賀市立動橋小学校、加賀市立山代小学校、小松市立能美小学校、能美市立湯野小学校で講座を行い、のべ一〇三一名の児童、教職員、保護者の方々にご参加いただきました。展示する作品は当館が所蔵するコレクションから日本画、洋画、彫塑、工芸、浮世絵など十三点を選び、各学校へは美術品専用のトラックにより毎回、慎重に運び込んでいます。本物の作品の前に、作品から音を想像してみるアートゲームや、一つの作品についてクラス全員で意見を出し合いながら見る対話型鑑賞を通して鑑賞を深めるもので、参加された児童、教員の皆さんからも好評をいただいております。



学芸室の人々

中澤 菜見子(普及課 学芸主任)

県美ひさびさの新人として平成二十六年採用していただきました。諸先輩方に導かれながら過ごしているうちに、あつという間に時が経ち、後輩も増えてきて、先輩としての責任を感じるこの頃です。

お休みの日は各地のミュージアムを訪ねることが多かったのですが、外出しづらいこの頃は、おうち時間の充実に入れています。最近のいちばん大きな買い物は、全自動洗濯乾燥機。高かったけれどすごく便利で、とても満足しており、堀くんも名付けて可愛がっています。

奈良 竜一(学芸第二課 学芸主任)

平成三十年に採用されて、学芸員生活も四年目に突入しました。工芸の作品と向き合いながら仕事をしていると、あつという間に時間が過ぎていきます。

普段は旅行、アウトドアやミュージアム、ギャラリーなどを巡っていますが、休みもとりにくく、コロナ禍ということもあり、近場の自然豊かな場所にお出かけすることが多くなりました。

最近では、日が沈む時間に合わせて、志賀町の機具岩を見に行きました。海の音も心地よく、癒やされました。

〔参加者募集！〕

映画上映会「最後の忠臣蔵」

コレクシヨン展「浮世絵にみる『忠臣蔵』」の関連行事として、映画「最後の忠臣蔵」(2010年)を上映します。友の会会員の皆さまは、優先入場可能！お好きな席をお選びいただけます。ご参加をお待ちしております。

映画上映会「最後の忠臣蔵」

日時…令和3年12月12日(日) 14時～(133分)

会場…石川県立美術館ホール

定員…200名

(要申込・定員を超えた場合、抽選になります)

料金…無料

開場…13時45分

(友の会会員の方は13時30分より入場可能です)

◆ストーリー

池宮彰一郎の同名小説をTVシリーズ「北の国から」の杉田成道監督が映画化。

赤穂浪士の吉良邸討ち入りより16年。大石内蔵助の命で密かに生き残った寺坂吉右衛門は、旅の途中、討ち入り前夜に逃亡した瀬尾孫左衛門に出会う。寺坂は元同士である瀬尾が隠し続けた真実を知る。主演に役所広司、佐藤浩市。

◆申込方法

氏名・電話番号・会員番号(友の会会員の方のみ)を明記の上、メールまたは往復はがきにてお申し込みください。

申込先…

メール…ishibi@prefishikawa.jp

(メールの件名は「映画上映会申込」としてください)

はがき…〒920-0963 石川県金沢市出羽町2-1

石川県立美術館 映画上映係

申込期間…11月17日(水)～12月1日(水)「当館必着」

◆注意事項

友の会会員の方は優先入場が可能です。当日、会員証のご提示をお願いいたします。新型コロナウイルス感染症の拡大状況により内容・定員等が変更になる場合があります。最新情報は美術館ウェブサイトをご確認ください。

12月の行事予定

| | |
|--|------------------------|
| ■企画展「うるはしきものめでたきわざ —北陸の芸術院会員・人間国宝—」関連行事 | 美術館ホールにて 無料・申込不要 |
| 5日(日) 「工芸技術記録映画上映会」 | 14時～16時 |
| ■土曜講座 | 13時30分～15時 美術館講義室にて 無料 |
| 11日(土) 「浮世絵にみる『忠臣蔵』」 | 学芸専門員 村上尚子 |
| 18日(土) 「コレクシヨン展(近現代工芸)スライドトーク」 | 普及課担当課長 西ゆう子 |

※日時や定員等を変更、または中止する場合がございます。最新情報は当館公式ウェブサイトをご確認ください。

ご参加にあたってのお願い

- ① 来館時にサーマルカメラによる体温チェックを行います。体温が37度5分を超える方の参加は、遠慮ください。
- ② マスクの着用、手指消毒の徹底をお願いいたします。
- ③ 参加時は受付名簿に氏名と連絡先をご記載ください。
- ④ ホール内では会話を極力ご遠慮ください。

《色絵宝尽鷲文平鉢 古九谷》いろえたからづくしさがもんひらばち こくたに

口径46.6×底径17.5×高11.8(cm)
17世紀/江戸

本作の絵付けは、宝尽しとして打ち出の小槌や法螺貝など、一般的な吉祥文を意識しているようですが、構図はかなり奇抜で、細部の描写にも定石に縛られない自由さが感じられます。こうした大胆な創作姿勢が、古九谷と伊万里焼の大きな相違点の一つです。

今夏に開催された「加賀百万石 文武の誉れ―歴史と継承―」展の第三章「高山右近とキリシタンの記憶」では、古九谷は、加賀藩におけるキリスト教信仰の記憶媒体だとする視点を提示して、一部の作品について大胆かつ斬新な意匠の深意を、キリスト教の視点から読み解きました。それでは、本作の奇抜さはどうでしょうか。

あくまで一つの視点と前置きしますが、見込みに描かれた打ち出の小槌の持ち手の配置や、そこに描かれた七宝文、さらに上下の竹がキリストの頭文字であるXを強調しているようにも見えます。

そして何よりも、中央に鷲が描かれていることが注目されます。鷲は古代エジプトから再生を象徴し、『詩篇』の一節を解釈してキリストとも関連付けられています。その上で、本作の産地・九谷にほど近い山中温泉の開湯伝説では、傷を癒やす鷲が薬師如来に結びついていることを想起すると、本作に描かれた鷲には、救い主のイメージが投影されていることは否定できません。したがって、「勝ち草」とも別称される沢瀉（せきぞう）が添えられていることは、罪や死からの勝利者としてのキリストを強調するためだったと解釈することができます。

人類にとって最も価値ある宝とは何か？この問いが本作の深意でしょうか。本作は、第2展示室で展示中です。ぜひご覧ください。

次回の展覧会

令和4年1月27日(木)
～2月20日(日)
会期中無休

| 前田育徳会 尊経閣文庫分館 | | 第2展示室 |
|-------------------|--------------------------------|---------------------------------|
| 前田家の茶道具 と名物裂 | | 金沢ゆかりの 茶道具 |
| 第3・4展示室 | 第5展示室 | 第6展示室 |
| 優品選 【近現代絵画・彫刻】 | 使う美、飾りの美 ～明治の工芸～ 【近現代工芸】 | 日本画のてびき —近代から現代へ— 【近現代絵画】 |

ご利用案内

コレクション展観覧料

一般 370円(290円)
大学生 290円(230円)
高校生以下 無料
※()内は団体料金

12月の開館時間

午前9:30～午後6:00

カフェ営業時間

午前10:00～午後6:00 年中無休

12月の休館日は
6日(月)～8日(水)、
29日(水)～31日(金)

「石川県立美術館だより」に広告を掲載しませんか？

石川県立美術館友の会会員、石川県立美術館協力者、
県内各行政機関及び文化施設、全国の美術館・博物館へ

郵送配布!! 3,000部発行

ターゲットを狙った
知名度向上県立美術館発行の
信頼度の高い広報媒体

お問い合わせは ☎092-716-1401

株式会社ホープ 福岡県福岡市中央区薬院1-14-5MG薬院ビル7F
東京証券取引所マザーズ上場 福岡証券取引所Q-Board上場 財源確保 検索石川県立美術館だより
第458号(毎月発行)
2021年12月1日発行
〒920-0963
金沢市出羽町2番1号
Tel:076(231)7580
Fax:076(224)9550
URL <http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/>石川県立美術館は電源立地地域対策
交付金を活用して運営しています。